



「苑」この人に会いたい
歌手
二葉百合子さん(74歳)

一 一 葉 百 合 子

「今年で芸能生活72年。
前だけ見ていたいし、
あと何年歌い続けられるか、挑戦です」

戦後を代表する名曲『岸壁の母』。二葉百合子さんの歌声と訴えかけるようなセリフは多くの人々の心を打ち、一時代を築いた。今年で芸能生活72年目。浪曲師として3歳で初舞台を踏み、戦争慰問に訪れた子供時代、そして『岸壁の母』のモデルである端野いせさんとの密接な付き合いといった様々な人生経験を経て輝き続ける、歌手・二葉百合子に迫ってみた。

文責・松本典子



るわしの姿が見えるのか…… “

あの情感あふれるセリフは、二葉さんが歌うからこそ生まれたもの。またこの歌には端野いせさんというモデルがいること有名だ。端野さんの一人息子・新二さんは太平洋戦争で満州に出征し、終戦直前に戦死公報を受けた。ところがその後、帰国した戦友や引き揚げ者の中から「新二さんは生きている」との噂が広がり、端野さんは京都・舞鶴港へ引き揚げ船が着くたびに岸壁に立つて新二さんを待ち続けた。その姿がＮＨＫのラジオで取り上げられ、『岸壁の母』が生まれた。この歌を縁に知り合った、二葉さんと端野さんの交友関係は端野さんが亡くなるまで続いた。

『岸壁の母』と運命の出会い

昭和46年にレコードデイニング、レコードが発売されたのは翌年。当時は懐メロブームで、所属するキングレコードで二葉百合子歌唱の懐メロのLPを作成した中に『岸壁の母』が入っていたという。

「もともと昭和29年に菊池章子さんが歌っていたんですが、菊池さんの時はセリフが

入っていなかつたんです。『(浪曲師の)二葉が歌うのならばセリフも入れた方がいいんじゃないかな』ということで、作詞をなさつた藤田まさと先生が、浪曲作家の室町京之介先生にセリフの部分をお願いして入れてもらつて、私は最初からセリフ入りの『岸壁の母』を歌つていたんですね。」

“又引き揚げ船が帰つて来たに、今度あの子は帰らない。この岸壁で待つていていたんですが、菊池さんの時はセリフが

「実際にあつた話ですからね。和裁が上手な人でしたから夜通し着物を作つて生計を立てて、一生懸命お金をためて引き揚げ船が入るたびに夜行列車に乗つて行くんですよ。去年、舞鶴の駅へ行きましたら、きれいで交通の便もよくなつて当時の面影はなかつたんですけど、当時は桟橋まで何キロもあるのに行くだけで大変だつたと思います。行きは希望をかけて行くわけですけど、帰る時のいせさんの気持ちを思つたらまたまらなくてね。港には同じ境遇の方がたくさんいらつしやるんですけど、いせさんの誰もいなくなつても最後まで一人で海を見つめて立ちつづけた姿を

思うと…。」



「岸壁の母」のモデルとなった端野いせさん。終戦後の昭和25年から8年間、舞鶴に引き揚げ船が着くたびに一人息子の新二さんを待ち続けた。亡くなるまで再会を願いながら、昭和56年7月1日、脳軟化症のため他界した。

いせさんに教えられた「母の強さ」

いせさんのお宅を訪問したり、都内でお公演があるといせさんが見に来てくれたり、親子のような友人のような交友関係。その付き合いはいせさんが亡くなるまで続いた。

「公演の楽屋に来てみると、舞台の袖に椅子をおいてあげてね。そこで『岸壁の母』を歌うと食い入るように舞台を見てました。よく来てくださいましたね。その後入院して今日も明日も知れない状態でも、もうろうとしながら『(新二は)明日帰つてくる』って言うんです。歌詞の中に”もしやもしや”ってありますけど、本当に帰つてくるついでいせさんは最後まで思つていたんです。聞いてて切なかつたですね。最後に立ち合つた時に希望を持つたまま息を引き取られたので、それがせめてもの慰めでした。」

亡くなつた当時は『岸壁の母』を舞台で歌うのもつらかったという二葉さん。最近は少し気持ちを入れ替えて、平和な時代にこの歌を歌えることに感謝しながら「お母さん、聞いてね」という気持ちで歌つているという。

「昨年23回忌だつたんですよ。能登の富来町にお墓があるので、お参りしてきました。

した。早いですね、もう23年なんて。あのお母さんこそ”母は強し”っていう言葉が似合う人でしたね。」

3歳で初舞台、そして戦争慰問へ

二葉さんは東京の葛飾で生まれた。浪曲師の父、東若武藏氏の影響で、「子供の頃から父が声を出しているのをきいて育つた。」という。初舞台を踏んだのは3歳のとき。

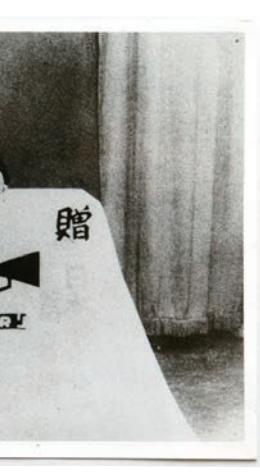
「父は怖い存在でしたから、『やってみるか』

と言られて『ごたえもできないで『うん』つて言つちゃつたんです。(笑)。父に毎日教わりながら、何の抵抗もなく初舞台を踏みましたね。鮮明には覚えてませんけど、

一生懸命お稽古をして、父や師匠がたがたくさん出てらした寄席に出ました。母が手縫いで作った紋付袴を着てね。それが結局プロとしてデビューしたことになりますね。背が小さいのでみかん箱の上に乗つてやりましたら、拍手喝采をいただいて嬉しかつたですよ。昔は夜に寄席がありましたので、毎日やつてました。」

戦争慰問で各地を訪れたのは小学校高学年のとき。国内の陸軍病院を回り、大人の浪曲師に続いて20分ほど浪曲を歌つていた。

「傷ついた兵隊さんたちの前で舞台をやるんですけど、耳が割れるほど拍手してくれるんです。それがすごく嬉しかつたですね。小さい女の子が舞台をやるのは心



昭和14年ポリドールレコード入社時



昭和16年4月水戸市陸軍病院に慰問



が和んだんでしょうね。大きな戦争があったし、普通の女の子みたいな青春時代つてなかつたですよね。3歳から稽古稽古でずっときちやいましたから、お友達と遊んだり映画みたりしたことは一回もありません。でも周りもそうでしたし、昔の子だから我慢できましたね。」

健康法は声を出すこと、歩くこと

デビュー72年目とは思えないほどハリのある美しい声の二葉さん。日常生活の中でごく普通にしていることが、歌い続けることに役立つことが多い。

「仕事を休んだのは出産の時の20日間だけですね。その頃は歌の仕事が多かったので、9ヶ月の産み月まで大きなお腹で舞台に出ました。出産して20日目ぐらいから地方の舞台に出て、一ヶ月ぐらい帰ってきました。毎日歌つてますとね、声は鍛えられて強くなります。2年も3年も休んでしまうと出なくなることもありますよ。」

舞台の前には「今日は大丈夫だな」と自分で納得がいくまで声を出す。声を出す時にお腹に力が入るよう、なるべく本番の2時間前にお腹いっぱい食べておく。そして楽屋ではお腹に力を入れて发声練習。そして安心してから舞台に出るという連続だとか。

「声を出すということは健康につながりますよね。人間ドックで肺活量を調べてもらつても、普通の女性よりは相当ありますよ。浪曲の発声というのは、お腹の底から声を出すのでかなりきついんですけど、ずっとやつてきてよかつたなと思いますね。」

体は健康そのもの。デビューしてから風邪をひいて声が出なくなつたことはわざか2回で、ここ30年は一度もないそうだ。

ストレス解消は旅行とウォーキング

二葉さんが日々やるように心がけているのは、歩くこと。お住まいが表参道にあるため、原宿や渋谷、代々木公園、恵比寿などさまざまなウォーキングコースを楽しんでいる。

「時間があれば万歩計を付けて、8千歩1万歩をメドに歩いています。歩くって血圧にもいいですし、ウインドーをちらちらつと見ながら、今はこういうファンションが流行ってるんだな“とか”この前と、もうお店が変わってる“って発見するのもすごく楽しいですね。仕事のある日に歩くのはきついので、家の中でスクワットをやるんです。どなたの手も借りないし、楽屋でできるでしよう?毎日やつてると今日は50回、明日は60回つて積み重ねでどんどんできるようになります。今は1日110回で

interview 苑

旅行も二葉さんのストレス解消には欠かせない。最近は年に一回休みをとつて海外旅行をするという。

「成田空港を出ればどこでもいいんです（笑）。それだけで全部忘れちゃうんですね。グアムでもハワイでもいいし、ヨーロッパも大好きです。何を買うわけでも何をするわけでもないんですけど、異文化に触れて新しい空気を吸つてリフレッシュして成田に帰つてくると『さあ明日から仕事がんばろう』って思えるんですよね。それを繰り返し何十年やつてきました。向こうに行くとストレス解消されて頭ひとつ痛くならないんです。和食も洋食もイタリアンも何でも大好きですから、どこへ行っても大丈夫。好き嫌いがないのも健康にながつてるかもしれないですね。」

二葉さんご夫妻は仕事でもプライベートでもいつも一緒にウォーキングも一人で行き、旅行も必ず一緒。ご夫婦仲がよいことも、二葉さんの元気と若さを保つ秘訣なのかもしれません。

若い人たちとの交流が若さを保つ

二葉さんのもとには、石川さゆりさん、坂本冬美さん、藤あや子さん、原田悠里さんなど演歌歌手の方たちが歌謡浪曲を習いに通っている。若い人たちと仕事をしたり、稽古の合間にお茶を飲んでたばかりですけど、目標を持たないと何

雑談するのがとても楽しいとか。

「若い人たちと話をするのが大好きなんですね。『そういうシャツが流行つてるのは?』とか『また携帯電話変わつたわね』とか

若い人の話題で話すのつてすごく楽しいんですよ。その方々のエネルギーをいただいてるし、一緒に語り合えるのは幸せです。

『気が若い』って言われますね（笑）。お茶を飲みに行くにも美容院に行つたりするのにも、『そこまでしなくとも』って言われるんですけど、『若い人たちと一緒に

行くんだから、私もきれいにしておかないと』って思うんです。これが『なんでもいや』ってなつたらちよつとまずいかなつて。こうして舞台をやらせてもらつたり、外を歩いて人に見られてるっていうのがボケ防止になつてる気がしますね（笑）。」

声の続く限り、生涯現役でいたい

「歌はもう少しやらせてもらいたいですね。生涯現役でいられたらいいんですけど、舞台上がつても声が出なくなつて、みじめな姿をお客様に見ていただくようになつたらやめます。今のところはまだ声が出ますので、あと2年か3年は大丈夫かなつて自分でも思つてるんですけど。思つてないと舞台に上がれないんです。目標は芸能生活75年ですね。つい最近70年が終わつたばかりですけど、目標を持たないと何

もなくなつてしまふし、あと3年やろうかなつて気持ちがあつていいと思うんですね。

よね。なにか目標があると『今日もこれだけ声が出たから明日も出るかな』と思えますし、声を大事にしていいコンディションを保てるんじやないかと思うんです。

お稽古をすると、みんな『先生あと3年は大丈夫よ』て言ってくれるんです。

幸いなことにお酒も飲めないしたばこも吸わないので、それも今日まで続けてこられた要因のひとつかもしれませんね。

後ろを見たつてしようがないし、前だけ見なきや。自分がいくつまでやれるか、挑戦です。

見なきや。自分がいくつまでやれるか、挑戦です。



7月5日 CDリリース「岸壁の母」～母の叫び入り～
歌は知っていても内容を知らない人のために、30分ある
浪曲を若い人们に聴きやすいよう12分に短縮。「岸壁
の母」の内容をコンパクトに収録したニューバージョン。
¥2,000／キングレコード